



TOPIC
1

令和5年度国立大学教養教育実施組織会議の報告

令和5年5月20日(土)に、「令和5年度(第59回)国立大学教養教育実施組織会議」がオンライン実施されました。この会議では、全国の国立大学で教養教育を担当する教職員が集まり、各議題についてそれぞれの大学の現状を報告し、意見交換や情報交換を行っています。本学教職員は、4つの分科会、全体会議と事務協議会に出席しました。学生のみなさんにも全国の国立大学における教養教育への取り組みや動向を知ってもらうために、各分科会に出席された教職員の方々から報告をしていただきました。

第1分科会：数理・データサイエンス・AI教育の必修化について

ビッグデータの活用など情報教育の重要性が叫ばれ、小中学校や高校でも情報関連の授業が必須化されています。大学においても、この時代の潮流の中で、数理・データサイエンス・AI教育の必修化が求められています。

事例報告として高知大学では、令和4年8月に文部科学省「数理・データサイエンス・AI教育プログラム(リテラシーレベル)」の認定を受け、令和4年10月にデータサイエンスセンターを設置しました。共通教育で全学生の必須科目とし、専門でも各学部で関連科目を履修させています。山梨大学では、令和2年度から全学共通教育科目にて必修開講(1科目2単位)し、令和4年8月にリテラシーレベルの認定を受けています。和歌山大学では、平成30年にデータ・インテリジェンス教育研究部門が発足し、令和5年度から全学必修化となり、1年次から大学院に至るまでの一貫した情報教育体系を構築しています。岡山大学では、平成31年度から選択科目として開講し、令和3年度からは、全学部の1年生に教養教育必須科目が始動、令和3年6月にリテラシーレベルの認定を受けています。

本学においても、各大学の実施状況などを参考にしながら、全学必修化に向けて動き出しています。(瀨瀬 守)

第2分科会：遠隔授業の継続実施について

埼玉大学から、遠隔授業の教育効果の検証・評価を実施している事例を共有したいという提案がありました。埼玉大学、茨城大学、静岡大学からは事例報告、本学からは話題提供を行いました。今回は、本学の話題提供を中心に報告します。

本学では令和4年度から、大規模人数(約1,300名)を対象にした遠隔授業が始まっています。そこで、工学部の横田康成先生(教育推進・学生支援機構 教学DX推進センター長)から「岐阜大学における遠隔授業の新たな取り組み」として、受講生による課題の相互評価法について話題提供を行いました。通常、大規模人数の遠隔授業では、受講生のレポートの採点が困難ですが、本学では、横田先生が開発された受講生による相互評価法により、それが可能となりました。他に例を見ない画期的な取り組みで反響が大きく、他大学の先生方からは多くの質問が寄せられました。また、この話題提供を受け、原稿執筆時点(7月)で、2つの国立大学から講演を依頼されています。(清島 絵利子)

第3分科会：教養教育における地域科目のあり方について

第3分科会では、大学COC事業やCOC+事業を経た今、地方国立大学における地域活性化の中核的拠点としての役割や地域活躍人材の育成と輩出が期待されており、その中で「地域とのつながり」を重視した大学教養教育の「地域科目」の現状と成果、課題について、事例紹介と議論が行われました。

提案者である高知大学からはCOC+事業で設置された「地方創生推進士」、弘前大学からは「ローカル科目」の新設や「地域ゼミナール」(必修)、千葉大学からは地域志向科目の2科目必修化、「ホリスティック地域学」、国際連携と地域連携を連動させたPBL科目(Project Based Learning: 課題解決型学習)、富山大学からは信州大学・金沢大学と連携して実施しているCOC+R ENGINE教育プログラムについて発表がありました。質疑応答では、自治体や地域との連携のあり方、学内の実施体制や教員の負担、事業継続に関わる予算獲得について質問があり、活発な意見交換が行われました。

岐阜大学においても、地方国立大学に期待される地域で活躍できる人材の育成を目指した地域志向科目や教育プログラムを全学に開講・展開しており、学生が地域を実践的に学ぶ環境の拡充が一層重要であることを改めて感じました。(大宮 康一)

第4分科会：第二外国語の教育充実化

本会議第4分科会のテーマは、「第二外国語の教育充実化」でした。その実情は、大学により教育研究環境、財政状況等が異なることから、単純な比較はできません。しかし、どの大学も近年のより厳しい状況において、第二外国語教育の改革に腐心しています。

全体的な大きな傾向としては、第二外国語は縮小傾向にあります。そのため、それを補うための方策として、第二外国語文化圏の講義科目の併設、クォーター制、教科書・シラバスの統一、e-learning 導入等のほか、海外語学研修や民間の検定試験を利用した単位認定を行っている大学もあります。他方、教養教育としての第二外国語は一切ナシという大学も2校ありました。一番印象的だったのは、学部によってカリキュラムが大きく異なる富山大学の事例（検討中）です。個別言語の履修を課さない学部においては、必修の講義科目「多言語世界入門」により、6言語（独・仏・露・中・朝・日）すべての初歩がオムニバスの紹介されます。そのあとは希望者のみが個別言語の演習科目を履修することができるということです。

本学の全学共通教育第二外国語は、令和4年度よりカリキュラムを改めました。従来の演習科目は自由選択科目として縮小し、新設の講義科目（言語と文化分野）を全学部学生共通の選択必修科目として展開しています。しかしながら、今後、数年間で第二外国語担当の専任教員が次々に定年を迎えることから、その対処を早急に考える必要があります。（洞澤 伸）

全体会議 教養教育におけるキャリア教育の現状について

全体協議に先立ち、文部科学省の山田研市課長補佐により、高等教育政策の動向と大学に求められているキャリア教育について講演が行われました。

協議題「教養教育におけるキャリア教育の現状について」は岐阜大学が提案したもので、清島絵利子先生（基盤教育センター副センター長）が本学のキャリア教育の取り組み例を紹介しました。就職後3年以内の離職率の増加問題に対しては、低学年時に「日本語表現Ⅰ（初級）」や「先輩社会人に学ぶ一実りある学生生活を送るために」等の授業を履修することで、コミュニケーション能力が向上し、将来目指す職業について考えを深めることができるようになり、このことが企業と学生のミスマッチの減少や防止につながっていくことが期待される旨の報告がありました。

他大学の事例として、高知大学からは3人一組のチームで活動をおこなうインターンシップ「SBI (Society Based Internship)」の取り組みについて、千葉大学からは海外派遣プログラムも含んだグローバルインターンシップの沿革と課題について、山口大学からは主体的に自ら学ぶ「キャリア学習」を重視した共通教育科目「キャリア教育」についての報告がありました。（橋本 智裕）

事務協議会

今回の事務協議会はメール会議で開催され、11の承合事項について共有がありましたので、その中で気になる話題をご紹介します。

近年、各大学では地域性、独自性を活かした教養教育が充実しその質の向上が期待され、他大学との連携による教養教育が実施されています。そのようななか「大学間連携等における教養科目の実態と動向について」と題して、各大学が他大学と行う連携についての議題がありました。

この議題に対して回答があった大学の約8割が、何らかの形で他大学と連携しているか、もしくは連携を検討している状況であり、本学でもこれまで、ネットワーク大学コンソーシアム岐阜などによる単位互換を行ってきました。さらに今年度からは、名古屋大学と連携開設科目を実施し、両大学で28科目を開講しています。両大学の学生にとってこの連携開設科目は、自大学で開講していない講義が気軽に受講できるため、大きなメリットになると思います。

今回報告のあった国立大学教養教育実施組織会議は、来年度本学が当番校となり、令和6年5月25日（土）に開催する予定です。（有川 美香）

TOPIC
2

第13回教養講演会(6/7)の報告

演題：第13回教養講演会「3大ピラミッドの3D調査」開催

講師：河江肖剰氏（名古屋大学高等研究院准教授）

開催日時：令和5年6月7日（水）13時00分から15時00分

参加者数：100名

エジプトのピラミッドについては、最近になって新たな空間が発見されるなど世間を大いに賑わせています。そのピラミッドについて、現在、第一線で活躍している気鋭の研究者が名古屋大学の河江肖剰准教授です。基盤教育センターでは、6月7日（水）にこの河江先生をお招きして表題のとおり教養講演会を開催しました。

実は今回の教養講演会、小学生の頃からピラミッドやツタンカーメンのことに興味があり、折に触れて関連本に目を通してきた私がかねてから願っていた企画でした。

当日は、クフ王ほかギザの3大ピラミッドの話はもとより、ジョセル王の階段ピラミッドなど他のピラミッドについても紹介がなされ、それら内部の構造体のことなどを、大変分かり易く、詳しく聞かせて頂くことができました。また、少年の頃よりエジプトに憧れ、高校卒業後は単身エジプトに渡り、長年、遺跡のガイドとして働かれた後に研究者に転身されたという河江先生のライフ・ヒストリーも魅力的なものでした。

オンラインと対面との併用で行ったのですが、両方を併せて100名もの参加者がありました。名古屋大学へも同時配信していたにも関わらず、実際に岐阜大学の会場まで足を運んでくださった学生や一般の方もいらっしゃいました。まさに両大学の学生の教養への関心の高さをうかがわせる結果であり、企画者側として大変嬉しく、そして頼もしく感じました。(廣内大輔)



河江肖剩先生ご講演の様子

TOPIC 3 令和5年度基盤教育センター第1回FD(7/12)の報告

演題：コロナ禍から生まれた講義の新潮流

～1,300名の受講者に対するアクティブ・ラーニング、レポート採点を実現～

講師：横田康成氏（教育推進・学生支援機構 教学DX推進センター長/キャリア・学生支援センター長）
清島絵利子氏（教育推進・学生支援機構准教授）

開催日時：令和5年7月12日（水）13時30分から15時00分
参加者数：40名

前半は、横田先生に「受講者同士の相互採点、および採点者評価を導入したレポート採点法～データサイエンス的手法～」という題目でご講演いただきました。冒頭では、授業における受講者同士の相互評価はアクティブ・ラーニングの重要な技法のひとつであり、それを評価する仕組みにはデータサイエンス的手法が不可欠であることを述べられました。続いて、本学での成績評価に特化した新たな手法（受講者同士でレポートを採点する仕組み）を開発し、実際の授業に適用したものをご紹介いただきました。レポートの課題の出し方や採点基準を明確にすれば、この手法により質の高い相互評価が可能となり、またアクティブ・ラーニングの立場から、他者のレポートを評価することは自分のレポートの質の向上につながる利点があることもお話しされました。遠隔授業とITは非常に相性が良いため、この受講者同士を相互評価する仕組みを導入することにより、遠隔授業であっても少人数での対面講義と同等以上に高い双方向性（対話性）があるアクティブ・ラーニングを実現することが可能になるといふまとめで締めくくられました。

後半は、清島先生に「日本語表現Ⅰ（初級）における実践例紹介」という題目でご講演いただきました。小論文、レポートが書けることを目標としたこの授業においても、横田先生の開発した手法により、受講者同士の相互採点により他者の文章を評価した実践例（レポート・スライド）をご紹介いただきました。その中で、これらレポートの内容と評価についてのご講評をいただき、教員の予想以上に受講生は他者のレポートを厳しくかつ正しく採点している印象を受けたということをお話しされました。また、評価が上位の書評レポート・書籍紹介スライドを図書館に3ヶ月間展示した結果、その図書の貸出数が例年同時期の「5倍」になったお話などからも、受講者同士を相



横田康成先生ご講演の様子

互評価する仕組みは精度があるのみならず波及効果がある手法であることがうかがえました。

受講者同士の相互評価は教員による評価と極めて高い相関（相関係数 0.98 以上）を有しています。この相関は、横田先生、清島先生のお二人が膨大な時間を割いてレポート採点を繰り返した結果、実証されたご尽力の賜物であると感じました。

(島田 昌也)

TOPIC 4

本学における生成 AI (generative AI) に対する基本方針について

みなさんは生成 AI を活用していますか？

本学では、令和 5 年 7 月 3 日（月）に、学務情報システムを通じて「岐阜大学における生成 AI（generative AI）の教学上の利用に関する基本方針」を全学生に周知しました。その後も、生成 AI は日々進化を続けています。ChatGPT、BingAI、Bard、Stable Diffusion などでは、テキスト生成だけでなく、画像、動画、音声などのさまざまな種類のコンテンツを生成することが可能です。例えば、ChatGPT は、プロンプト（書籍名や自分が望む出力のイメージ）の入力さえ行えば、数秒で読書感想文を作成することができます。今まで頭を悩ませて書いていた文章が、いとも簡単に作成できるわけです。

しかし、生成 AI には、まだまだ問題点があります。文法上はほぼ正しい文章を作りだしますが、出力する内容には誤りが多いのが現状です。学生のみなさんには、生成 AI が出力する情報をうのみにせず、自分の頭で正しい情報を取捨選択し、適切に活用できる力を身に付けていってほしいと願っています。詳しくは、本学が発信した基本方針を熟読してください。

(清島 絵利子)

TOPIC 5

東海国立大学機構の連携開設科目「高年次教養セミナー」のご紹介

今年度東海国立大学機構の連携開設科目になり、名古屋大学の学生も Teams を利用して受講しています。オンライン上ではありますが、名古屋大学と岐阜大学の学生が講義を通して交流を深めています。後学期も高年次教養セミナーを開講します。全棟などに掲示されているポスターを見て、興味関心がある講義がある場合は、いつでも気兼ねなく、コモンズ教室に立ち寄ってください。当日の飛び入り聴講大歓迎です。

(清島 絵利子)



福岡先生とむかしの計算機に触れる(第4回) 島田先生と果糖について考える(第5回)

2023年度
後学期
全学共通教育科目
岐阜大学科目 1単位

高年次 教養セミナーII

専門以外の世間の学問を、学んでみませんか？

- 1 10月13日 金
二村 玲衣 (情報学センター)
「黒糖という“糖”から“糖族”を考える
- 2 10月27日 金
新田 高洋 (工学部)
「物理をつかって生物をしらべる
- 3 12月8日 金
洞澤 伸 (地域科学部)
「京都の古地図」
「イロハニホヘト」の源流について
- 4 1月19日 金
長谷川 誠人 (教育学部・学生支援機構)
「一緒に「哲学」をしてみよう！」
- 5 1月26日 金
飯田 泰弘 (教育学部)
「映画スクリプトを通して見る英語の構造

後学期の全曜日の午後、
いろいろな学部・学科の先生の
セミナーに参加して、専門のブレイクスルーに
役立ててみませんか？

会場
全学共通教育棟 コモンズ教室
時間
金曜日 15:00～17:15
コーディネーター
清島絵利子（教育推進・学生支援機構）
問い合わせ先
全学共通教育事務局 058-293-2179

基盤教育センター（令和 5 年 9 月現在）

センター長	瀬瀬 守	専門分野：化学
副センター長	橋本 智裕	専門分野：化学
副センター長	島田 昌也	専門分野：食品栄養学
副センター長	廣内 大輔	専門分野：高等教育論
副センター長	清島 絵利子	専門分野：日本語学

岐阜大学 教育推進・学生支援機構 基盤教育センター

〒 501-1193 岐阜市柳戸 1-1

☎ 058-293-3007

[https://www.orphess.gifu-u.ac.jp/
liberal_arts_education/](https://www.orphess.gifu-u.ac.jp/liberal_arts_education/)

瀬瀬 守 清島 絵利子 青葉 絵里香 責任編集